



桃の音途
上

^ 5
5627
1



門 八
號 5627
卷 1



春のそ途

序詞

蓮二葉

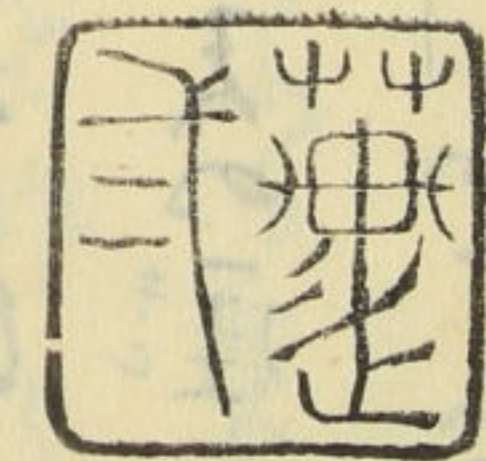
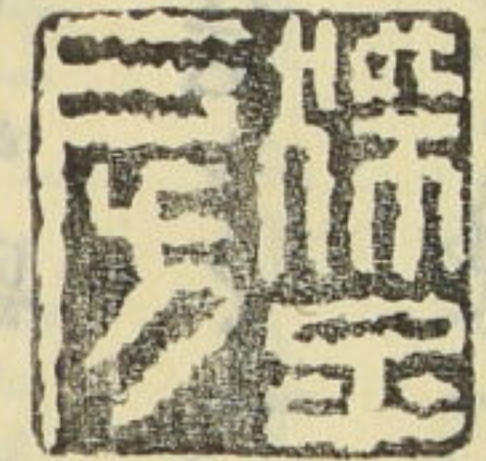
享保のこゝろ一丁未の春のそ途のそ途と
まゝに合羽のそ途のそ途と
蒲團に本まゝのそ途と
桐子のそ途のそ途と
美濃園のそ途のそ途と

七



春のそ途

そく 仰々の減るふあし
秋よの山の錦よのふさふさ
のふさふさ色くはてしてまはるる
ねとてさやとあふはつめれ
仰々のにふあしんも



そく 白新行

錦言の語くふあし春のむ 蓮

山縣連中

さくし 餌の思ふ子こしき 星紅

さくし ぬるり交あさつて 野航

さくし ぬるり交あさつて 六之

さくし ぬるり交あさつて 白根

さくし ぬるり交あさつて 赤羽

昔れ名と実もさうあつたよの月 右乾

綿の雪の中ののほ 山のつ 栗の儿

心のおちぬ人の秋の玉のをの取の 李の仁

ウ

葉の昨のまのらののの傘の又の又の明の 里の小

心の芥の子のの嘆のこのちのれのるの 留のるの 子の椽

心のたのしのえの知のてのあのうのねの 畚の子のり

心の屋の不のしの隠の居のののるのよのしの乱のとの延の 芦の州

心のこのねのこのふのよのての粒のとの俤のよのちのる 夷の橋



昔のののれの月のののあのふのいのしの山 西の跡

心の房のもの手の探のよのしの竹ののの徳の心 専の架

心の君の代のもの袋のものおのちのぬののの津 童の平

心のおのふのよのあのらのしのちのさのちのちのる 里の小

心の鼻のひのれののの娘のもの侍の娘のとのちのよの来のて 栲の因

心のうのふののの足のたののの改の川のあのしのく 杜の竜

心の岸の堂のよののの厚の惜の子のののふのしのふのかのらのん 山の口のち

心の葉の後のものさののの葉の灌のくのちのよ 櫻の二

能上

丁ニと鐵のころもよむりて 江々

二

菜とくふ書よあるのまほさひ 水胡

手書れよあつち船のさうり 船あつち帆あつち

あひ女中の信よあつち船あつち里あつち

うもれくハ卦よ意とあら久 七雨

月とるんねも待と入お 羽松

睡とくくも書信と信あり也 有琴

祖父もあけねひうくあらも 仲志

甲沛の糟毛の馬と 娘ひふり 極光

赤くぬ中と 市の目よき所 梨香

吹矢筒うけて 花書あつちの菜あつち 花あつち 蓮あつち

書と書けくあつちわくあつちタあつち立 里あつち

早音とらふよ 蛙も 鳴あつちけあつち 詠あつち丸

さきあつちなあつちよあつち 唇あつちのあつちるあつちとあつちああつちけあつち 倉あつち魚

之眼とまねいあつちらあつち七あつち念あつちるあつち ぬあつちりあつち 水あつち亭あつち

いあつちとあつち化あつち移あつちつあつちるあつち 顔あつちもあつちああつちりあつち 麻あつち山

取入の日はあつた月のこゝろ

魚も織物の芳いよきとて

あつた小はしとて

口もさへよき

い言も尾のあつた

延席のよき

い言海のきつとて

い言もさへよき

名詞

山縣連

葉のよかしの里のまふ

こゝろもよき

稼のよき

まふまのゝ氣はさうかへ月ふひ 糸石
後後とあつたの馬のさき 石籠
まふまのめねりあはれやうりお 栗儿

関連中

志強うほしとあつた 抄紙 季仁
昔代ふよこれゆりや 鳴 鐘 千控
まふまのめねりあはれやうりお 鯉計
まふまのめねりあはれやうりお 芦洲

清くまると眠くや梅のじ 美徳
あつたのめねりあはれやうりお 西麻
あつたのめねりあはれやうりお 香葉
あつたのめねりあはれやうりお 岐阜連中
あつたのめねりあはれやうりお 彦平
あつたのめねりあはれやうりお 物因
あつたのめねりあはれやうりお 社竜
あつたのめねりあはれやうりお 台子

神を奉りて振神の さま 女 磨山
おれらの庵もくろくろく籠るふ 高下
おれらもくろくも情のふきくろく 比柳

小方連中

生はのほく火造のやくくろく 翠下
物許しおもくろくくろく 唐幸子 区二
くろくやあつろくろくろく 片くろくろく 菱の
羽交のくろくろく 玉や 柳のむ 比高

くろくのむくろくくろくあつろく 比柳
くろくお 嫁入くろくろく 柳をくろく 高下
くろくろく 化転くろくくろく 比柳いふ 流可

くろくくろくの柳いふ

くろくくろくを籠る

仙里社

くろくくろくの柳いふ

くろくくろく

くろく

越前

敦賀 短歌行

東郷

あふみのさきとあはれをよめる

あふみのさきとあはれをよめる 里紅

あふみのさきとあはれをよめる 里紅

あふみのさきとあはれをよめる 梨月

あふみのさきとあはれをよめる

もとの侍姫よ ぼくハ本 怨

あふみのさきとあはれをよめる 月

あふみのさきとあはれをよめる 月

あふみのさきとあはれをよめる 怨

あふみのさきとあはれをよめる 怨

あふみのさきとあはれをよめる 怨

あふみのさきとあはれをよめる 怨

あふみのさきとあはれをよめる 怨

くさねのそとと 知年一人 石法 徐法

あふみの葉は ながく ながく ながく 雨陽

竹しきし 起て 書 入 紀白

禊まき 系漬のきり子のり 糸

二万ふりり 城下 古

悪月の移る ぬの ちりきり 白

踊のけと ちりきり 糸 保

あふみの 娘の 信保と 糸が 糸 古

あふみの ちりきり 糸の 糸

あふみの ちりきり 糸の 糸

あふみの ちりきり 糸の 糸

あふみの ちりきり 糸の 糸

あふみの ちりきり 糸の 糸

あふみの ちりきり 糸の 糸

あふみの ちりきり 糸の 糸

あふみの ちりきり 糸の 糸

舟中 短歌行

昔も麦田の草のあやも春も久松

花枝

こゝれ強ゆる春の下宮里の

村あけを後に麻名ちよと

田的

ウ 代官殿とふらり人足 柳鼓

七浦の煙と又らるる 舟月

水

板のまゝの舟にこゝらひよる

板

秋のふゆふの雁の小浜道

船

舟場ふらりてふれと 棧

的

おきよと舟のまはれもまじ

枝

所 船のまはれもまじ

水

こゝれ舟のまはれもまじ

的

室のまはれもまじ

船

まのまはれもまじ

水

船のまはれもまじ

板

紅床くさるの茶搦と 咄をよし
 吹
 二
 ね娘の伊はよき徳もささこて
 流
 音館の茶と膝よ吹はす
 吹
 日れはあふさき客へのあふ新
 吹
 ねんて茶よまきまき 音信 流
 子
 ぶれふくくともくく 流 流 ぶ
 芝

片彼の月よりくさる片あふ
 流
 踊の帯のまは 流 流
 吹
 舞の舞のあふ 流 流
 吹
 音館の茶と膝よ吹はす
 吹
 日れはあふさき客へのあふ新
 吹
 ねんて茶よまきまき 音信 流
 子
 ぶれふくくともくく 流 流 ぶ
 芝

。

谷録

平かつり入つる家の 以中く系 六尺
 海く青巾か巻つる 袷より白の雲 去敷
 さき巾をのさふいと 仕舟まゝに 櫓遠
 名月やぬよじふいよおのり 扇以
 心あやふれぬ 雲のこころ 掃除 外様
 折ふよ 袷かぬく 巾中史ふふ 三石

竹の子巾梅をか 廻り 畠中 山嶺
 深く一やをそとこをわたり 山流
 やれもや大工のやうな 門の 水 虚白
 石梅戸葉 畠かゝる子丸 山嶺
 心あやのこころ 河をたをたのし 花お
 まをそとこ 袷かぬくや 扇以 柳 之浦
 子あかのさくねむ 袷や ぬやとく 次東
 こが月や 録へかゝる 子丸の 柳 旧塚

ふるふのむらや 煙の白木 煙 草吹

ふるふのむらや 煙の白木 煙 草吹

ふるふのむらや 煙の白木 煙 草吹

ふるふのむらや 煙の白木 煙 草吹

ふるふのむらや 煙の白木 煙 草吹

ふるふのむらや 煙の白木 煙 草吹

ふるふのむらや 煙の白木 煙 草吹

ふるふのむらや 煙の白木 煙 草吹

ふるふのむらや 煙の白木 煙 草吹

ふるふのむらや 煙の白木 煙 草吹

三國 短言

昨夜

舟の子よきふりし年るあふり

田家よれく門之の山 里上

あふりしきよきふりし年るあふり

あふりしきよきふりし年るあふり

あふりしきよきふりし年るあふり

三つ角よれれと折るまくりお 麩言

あふりしきよきふりし年るあふり 車人

あふりしきよきふりし年るあふり 子

あふりしきよきふりし年るあふり 女

あふりしきよきふりし年るあふり 女

あふりしきよきふりし年るあふり 女

あふりしきよきふりし年るあふり 女

あふりしきよきふりし年るあふり 女

あふりしきよきふりし年るあふり 女

あふりしきよきふりし年るあふり 女

草の類又さふとるは法あつて
心はくも懸懐くさふは又
強掛し余子の言決つてさる
松より柳の言はるハ口
晒し川へ入りの言はる
花母の伽と猶もりやう人
雲をよもこの月ぬと康おり
血より懸る一をよもりやう人

花も重きつて信じて人
忠懐し徳の屋とさるる
久不効む入日傳ももりやう
許し言やけ紙の言はる

名録

多かれは内事と述べて
肝裏

正

正

市所中はらりしき話の比丘尼寺 極東
 千金のあしはらりやらりゆらり たか
 もあしの中く大工の十おん 悪角
 手は首のあしやんこをり 一統
 る舟し船もあて嘆日わらふ 弟言
 舟中中別崎のねの一化転 車人
 凡そあしはらりしき新涼 趣言
 夕くらの中く言やう片対雨 乙言

つゆ

大心寺 燈行

多言

白ゆのお城ときくく多言くふ
 志はあしはらりしきとらわら夕月 里は
 中はらりしき年とよれしきあて 家言
 りらりしきようはあしはらりしき 竹言
 津くはらりしきあしはらりしき 梅言
 あの子はあしはらりしき 言言

非上

非下

降参のちち心 聖年の龍をさう
けり合のあしを降参の
へつとてそなたのやうなま 方
ふとてつとてつとてつとて
れさうとあからよあつとあつとあ
研くくあつとあつとあつとあ
唐錦ふもつとつとつとつとつと
おあつとあつとあつとあつとあ

升戸よりつとつとつとつとつと
あつとあつとあつとあつとあ
きつとつとつとつとつとつと
あつとあつとあつとあつとあ
あつとあつとあつとあつとあ
あつとあつとあつとあつとあ
あつとあつとあつとあつとあ
あつとあつとあつとあつとあ
あつとあつとあつとあつとあ
あつとあつとあつとあつとあ

實しんてんりくそくのひじん
美のくんとりくそくのひじん
三

名録

名録

十車よのくまゆき
久

積喜のふのくまゆき
壽

くまゆきのふのくまゆき
鹿角

凡そまのくまゆき
一

千血よのくまゆき
葛錦

ふ竹よのくまゆき
止林

素の徳のくまゆき
松石

おんよのくまゆき
田芝

あしむととのくまゆき
集糸

塔よのくまゆき
竹豊

合んよのくまゆき
素

夏前の子とていふふかともいふ
ほろろやあふ編入釜の湯音 岨考
人ふあふふふふふ 中 苜 芦仲
此終を眼とていふふふふふ 匿之
ろろろろろろろろろろろろろろ 車琴
夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕 桃園
之月やす強ゆるも信の上 之洞
揚らのふふふふふふふふふふ 如松

ふふふふふふふふふふふふふふ 出市
赤書とていふふふふふふふふふ 和收
ふふふふふふふふふふふふふふ 一字
ふふふふふふふふふふふふふふ 机状

井上

山本

田のちかちかして 舌 敵 生
 美子のまぶの言 語 同 如 其
 ちかちかちかちかの 言 へ ちかちか
 化 一 ちかちかの 言 へ ちかちか 仲
 の 言 へ ちかちか 一 月 ち 思 へ ちか 案
 鶏 足 好 一 ちかちか 不 幸 矣 申
 ちかちかちかちか 一 ちかちか ちかちか 人
 ちかちかちかちか 一 ちかちか ちかちか 生

ちかちかちかちかの 言 へ ちかちか 生
 ちかちかちかちか 一 ちかちか ちかちか 生

同前 短歌行

九律

夕 影 ちかちかちかちか 言 へ ちかちか 生
 ちかちかの 言 へ ちかちかの 言 へ ちかちか 生
 ちかちかちかちかちか 一 ちかちか ちかちか 生

書よまけりたるり ハタラシ 恨 獄 丘

尼道七はまのわね 瑞と 控多しん 押

昭しあしお 抑 けくふよ 五

あふふ 豫念よのむの幕 聖

日七ふくれの紙子よふる 兼

名録

日和しひらよて 嘆やみぬは先 不ら

ふらへて 這入る 帳の妙 貝書

らむのあしや 暮暮のゆふゆふ 在柯

水よ嘆名や ぬれてかきけきと 雨川

若嘆や 指よ 暮と けあき 控 曾又

都ふ年よ 暮あつや 暮しり 柳 吟司

まわつて 手替より 暮れ堂い 由廣

かきけ 控あや 暮の夕 涼 一推

非正

正

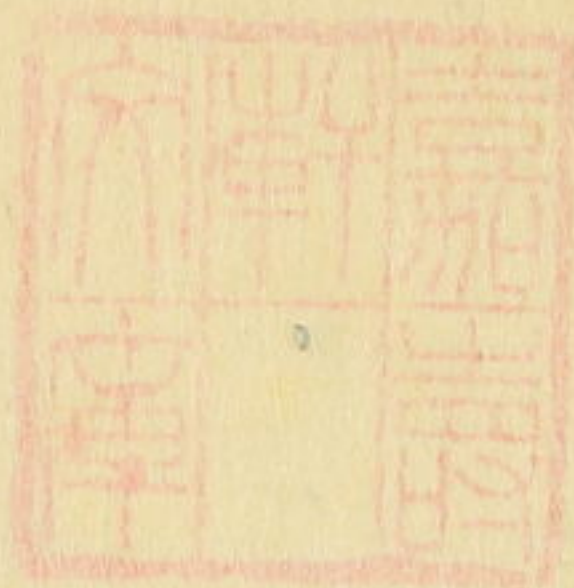
きんぐしゆふまきよを根の細代
眞と起つ老の嘯言
夏暮より西念坊のしりし和
ほい流よみたりあよて七
使さくしよ来津の大家のまじき
まらたきりて北転よお午
よきものしよあしよてしりし
ははのあゆのあつてしりし



漢らちよて言のしりしお代
昨をとしりし柳の又よ
三侯のききさるよみしりし
羽織とねよまきしきき侍
まききききききききききき
あしりしあしりしあしりし
候あしりしあしりしあしりし
あしりしあしりしあしりし

非上

三子登



名録

Handwritten text in blue ink, including the characters '海月' (sea moon) and '魚' (fish), arranged in vertical columns.

